

相馬市は、福島県の東北端、太平洋に面した人口約36,000人のまちです。東日本大震災では、地震、津波などで大きな被害を受けました。当市と相馬市は、平成19年2月7日に災害時の相互応援に関する協定を結びました。市では、この協定にもとづき、資機材や物資などの提供、職員の派遣を行っています。多くの市民、団体の方々からの支援もあり、相馬市では復興に向けた取り組みが着実に進められています。現在、相馬市に派遣している職員から、現在の相馬市の状況を報告します。



H23.3.31撮影

尾浜字追川地区



6月に完成した
漁労倉庫

H25.8.26撮影

着実に進む施設整備 10月には新市民会館が完成

相馬市内では多くのハード事業が進められています。防潮堤の工事や移転先住宅団地の造成、避難道路・下水道の整備

10月に完成した新市民会館



など生活に直接関わる工事のほか、LVMH子どもアートメゾン（情操教育支援施設）など様々な整備が行われています。JFAの支援を受け、光陽サッカー場のリニューアル工事が完了したほか、防災集合所や漁具倉庫、新市民会館が完成しました。今後も市役所新庁舎の建設や歴史資料収蔵館の改築、観光交流拠点「千客万来館」の建設などが予定されています。

放射線量は半分以下に低減 漁協が試験操業を再開

除染作業が行われ、相馬市内の放射線量は、震災後2年間で半分以下に低減されました。線量は場所によってまちまちで



相馬双葉漁協が試験操業を再開

ですが、市街地では裾野市内とほぼ変わらないレベルになっています。市民の方には、正しい放射線の知識を知らせる啓発活動を行っています。また、ホールボディカウンター検査（内部被ばく量検査）、ガラスバッジ測定（外部被ばく量検査）、甲状腺がんの検診などを通じて、健康に日常生活を送るための取り組みを行っています。

農産物や海産物も放射性物質濃度の測定を行っています。市場に出荷する製品の安全には細心の注意を払っています。相馬双葉漁協が試験操業を再開したという報道は、記憶にも新しいところです。自家消費分の食品も、希望者に対して放射性物質濃度の測定を行うなどの取り組みを継続して行っています。

復興に向け活気あふれる市内 引き続き支援を！

相馬市では、復旧事業から復興事業への移行が始まっています。市民の皆さんもお互いに助け合い前向きに生活していて、その姿を見て私も活力をいただいています。仮設住宅では、買い物に出掛けるのが困難な方を支援するため、NPO団体によるリアカーを使った食料品や日用品の訪問販売が行われています。そのほかにも各地区の盆踊りや夏祭り、伝統的な神事である相馬野馬追^{そうまのまおい}などでも市民の皆さんの熱気を体感することができました。

復興を目指して活気にあふれている相馬市ですが、真の復興にはまだまだ時間がかかります。今後とも変わらぬ支援が必要だと感じながら、日々業務に取り組んでいます。



リヤカーを使った訪問販売



相馬野馬追

相馬市建設部都市整備課まちづくり係 佐々木正之